

夢を追う卒業生 その31 令和2年4月14日

今、伝えたいこと

◇今回は、古田翔子さん（岐阜大学教育学部国語教育講座）のレポートです！

▽はじめに

こんにちは、お目にかかれて光栄でございます。私古田翔子は、岐阜大学教育学部国語教育講座に通う三年生です。そして、丁度先日カンボジアから帰ってきたところでございます。何故このような状況になっているのかを述べるため、まずはここ数年の古田翔子の様子についてすこしばかり振り返ろうと思います。

▽入学、そして二年

関高校に通い三年目の私は大学受験を目の前にして教育学部を志す決心を致しました。当時の私は関高校の先生方がそれはもう大好きで、書くことが好きだったこともあわせて高校の国語教師を目指していました。しかし、いざ大学に入り学びを深めると「果たして私は本当に教員という仕事がしたいのか」「このまま教員になったとて、教壇に立ってものを語れるほどの人物足るのか」という疑念が浮かび、自分のキャリアについて再考することになりました。

その後大学一年生、二年生を過ごし、教育学部としての学習と課外活動の両立を目指して参りました。インターンシップ、その成果発表会、秘書検定、ボランティア活動… 様々な活動をしています。あるとき「世界を見てみたいな」と思い、そこでぱっとうかんだものが海外インターンシップでした。こうして私はつい先日まで海外インターンシップのためにカンボジアに旅立つことになりました。

▽カンボジアにて

ところで突然ですが、カンボジア人の平均月収がいくらかご存じでしょうか。私の聞いたところによると約 200 ドルだそうです。そして、私が参加したインターンシップでは三日間の販売で平均月収を上回る 250 ドルを売り上げました。

インターンシップの内容を大まかに述べると、市場調査から始まり、ヒアリングや試食会を経てカンボジアの首都にあるショッピングモールにて三日間の販売を行うというものです。販売では目標として定めていた 100 ドルを大幅に超え、先ほど述べたような 250 ドルの売り上げという良い結果を残すことができました。勿論この過程でも複数の問題にぶつかり、その度に他の参加者と共に解決してまいりました。多くの場面にて個人的に成長できたな、と思うことがあります。伝えたいことばかりで長くなるためあえてここでは割愛させていただきます。また今回私が参加させていただいたインターンシップはサムライインターンというものです。内容も違い、またお金もかかりますが、高校生向けのプログラムもあります。興味があれば HP をご覧くださいませ。良い経験になりますように。

▽今、伝えたいこと

さて、私がこのカンボジアのインターンシップで学んだこと、この場で述べたいことは二点です。一つ目が「出会いの重要性」というものです。カンボジアでの海外インターンシップでは、他の八人の参加者を中心に多くの出会いに恵まれました。優しく私のことをとても理解してくれる方、積極的で心の底から尊敬できる方… 出会った全ての人々に私は幾度も助けられました。勿論出会うことに別れはつきものですし、また出会いのすべてが良いものであるとは言えません。それでもどうか出会うことに憶病にならず、ひとつひとつの出会いを丁寧に、そして大切にしてください。それはいつかあなたの学びにかえてくるはずです。

二つ目に「人間として豊かになる」ということです。教育学部に入学してきちんと勉強すれば、教員になれます。どんな大学に入学しても卒業さえすれば、俗にいういいところの就職ではないにしろ働き口自体はきっとあります。けれど、大切なのは「何になるか」ではなく、「どういう人間になるか」というところではないでしょうか。学校から離れて仕事を辞めて、ただのひとり人間として晒されたとき、胸をはって自分自身を誇ることができる人でありたいと私は感じました。最短距離もよいですが、たくさん回り道寄り道をして深い造詣や豊かな感性を養うのもきっとよい選択肢です。

▽おわりに

私は環境や関係を自ら変えたり未だ見ぬものに歩みよったりして、昨日の自分より深い人間になれることを目指しています。映画鑑賞、読書から教育実習やインターンまで、無理のない範囲で頑張っているこまいという気持ちです。さいごに、この長いメッセージを読んでいただき、本当にありがとうございます。これを読んでいらっしゃる貴方の明日が、貴方にとってすこしでも豊かになることを、心から願っております。



左写真 実際の販売ブースの様子

右写真 朝日とアンコールワット、またそれを眺める友人